

<p><b>中長期目標</b> (学校ビジョン)</p>	<p>岩美高生としての誇りと自覚を持ち、何事にも「誠実に対応でき、他者と「協働」して物事に取り組み、夢に向かって「果敢」に挑戦する人間を育成する。</p>	<p><b>今年度の重点目標</b></p>	<p>1 「学力」＝「学ぶ力」の向上と進路実現 2 「人間性」の育成 3 地域と連携した学校づくりと魅力化</p>
----------------------------------	---	------------------------	---

年 度 当 初				評 価 結 果 ( )月			
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 「学力」＝「学ぶ力」の向上と進路実現	学力の向上と学習習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価アンケート(12月)の「学力の向上感」に係る問いに対して生徒の肯定的な回答は80.7%と目標を達成したが、保護者については77.4%とわずかに届かなかった。</li> <li>・2、3年生基礎力診断テスト(12月)において生徒の学力の2極化が拡大している傾向にある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価アンケートの「学力の向上感」に係る間に対する生徒の肯定的な回答の割合が80%以上。</li> <li>・基礎力診断テストにおいて、D3ゾーンの生徒数が全体の30%以下。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科で中学校段階までの学習内容を身に付けるためのリスタート学習を計画的に実施する。</li> <li>・基礎力診断テスト結果の有効な活用方法について検討する。</li> </ul>			
	生徒が主体的に取り組む授業の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価アンケート(12月)では「授業では、自分の意見や考えを発表する機会が設けられている」に対する生徒の肯定的な回答の割合が86.7%と昨年度の目標まであとわずかであった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価アンケートの「授業では、自分の意見や考えを発表する機会が設けられている」に対する生徒の肯定的な回答の割合が90%以上。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観点別評価を生かし、生徒に学習の振り返りを促すことで学習に対する意欲を向上させる。</li> <li>・「主体的に学習に取り組む態度」の評価のあり方を検証しつつ、「指導と評価の一体化」の観点からの学習指導を進める。</li> </ul>			
	「自らの将来について主体的に考える」キャリア教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価アンケート(12月)では「自分の進路実現に向け、資料を集めるなどをして、進路を考えている」生徒の割合は12月でも67.5%と低く推移している。</li> <li>・3年生の第1志望での進路決定率は目標を達成できた。特に就職については1度目のチャレンジで全員合格であった。</li> <li>・総合的な探究の時間で生徒は自分の興味がある分野で仲間と協働作業し、その問題を仲間と議論しながら深く調べることで課題を解決しようとする姿がみられた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価アンケートの「自分の進路実現に向け、クロムブック等で情報を集めるなどをして、進路を考えている」生徒の割合が75%以上。</li> <li>・進路学習が3年間を通じてストーリー化された一連の流れのなかで実施できている。</li> <li>・探究的な学習との往還を通して、自己の在り方生き方を考え具体的に行動を起こす契機となるよう進路行事との関連を踏まえさらに再編成を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専任が作成した3年間を通じた進路ストーリーの職員周知を行い、それに基づき各学年の進路学習を効果的に実施する。</li> <li>・主体的に進路研究ができるようタブレットの有効活用を進める。</li> <li>・探究的な学習を通して、自己の在り方生き方を考え具体的に行動を起こす契機となるよう抜本的な進路行事の精選・再編成をさらに進める。</li> </ul>			
2 「人間性」の育成	学校教育活動を通じた基本的生活習慣とマナーの確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・頭髪服装検査で再検査となる生徒数がやや増加した。</li> <li>・学校評価アンケート(12月)の生徒回答結果をみると、校則やマナーの厳守、挨拶や返事に関する意識は高水準で目標達成はしている(92.8%)が、職員の評価は目標に届かなかった(78.0%)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・頭髪服装指導において再検査を受けなければならない生徒が10%以下になっている。</li> <li>・挨拶、返事、頭髪服装等の基本的生活態度が良好な状態が維持され、学校評価アンケートで生徒の肯定的自己評価が90%以上、職員の肯定的評価が80%以上となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的な学年指導・教科指導と定期的な全体指導を充実させる。</li> <li>・指導部ノートを有効活用し、「報告・連絡・相談」を徹底することで各学年、授業担当者と緊密に連携する。</li> <li>・生徒指導委員会を有効活用する。</li> <li>・生徒に進路決定時の面接を常に意識させた指導を行うとともに、保護者にも協力を仰ぎ指導方針を丁寧に説明しながら適切な連携による指導を徹底する。</li> </ul>			
	部活動を振興し、健康で心身のバランスのとれた人間の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価アンケート(12月)では「部活動に真面目に取り組んでいる」と回答した生徒が88.0%と高水準である一方で、「部活動を辞めている」が一定数存在している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全生徒が部活動に加入している状態が継続している。</li> <li>・部活動に対する満足度が高く、忍耐力、礼儀、自己肯定感が向上している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動指導計画に基づいた適切な運営を通し、技術向上のみならず人間的な成長を支援する。</li> <li>・本校の実態及び将来像に即した部活動の精選を進める。</li> </ul>			
	多様な生徒を理解し一人ひとりの自己有用感の伸長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活満足度調査の結果では、「学校が安心安全な場所である」と回答した生徒は83.6%(5月)、79.6%(10月)で目標を達成した。</li> <li>・学校評価アンケート(12月)によると「携帯・スマートフォンの学校外での使用時間が多くなっている」生徒の割合は63.9%で年々減少傾向にあり、携帯・スマートフォンのルールやマナーに係る生徒間の意識格差については、解消にはまだ至っていない。</li> <li>・学校評価アンケート(12月)の結果によると、岩美高版UDを意識して効果的な指導・支援に取り組む教員の割合は89.0%であった。(昨年度比+20.3%)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活満足度調査で、「学校が安心安全な場所である」と回答した生徒の割合が70%以上。</li> <li>・学校評価アンケートで「携帯・スマートフォンの学校外での使用時間が多くなっている」生徒の割合が70%以上。</li> <li>・SNSの利用に係るマナーやモラルを守ることができている。</li> <li>・いじめの発生件数がゼロである。</li> <li>・他者の気持ちや周囲に配慮した言動ができる。</li> <li>・生徒一人ひとりが自己実現を目指し、あらゆる教育活動の中で生き生きと活動している。</li> <li>・岩美高版UDを意識して効果的な指導・支援に取り組む教員の割合が80%以上。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報モラル講演会等を早期に実施し、全校集会・学年集会・HR等、あらゆる機会を通じて、スマートフォンの扱い方やSNSの危険性について啓発活動を行っていく。</li> <li>・生徒観察及びアセスメントを全職員で連携して実施し、必要に応じて個人面談や個別学習指導を実施する。</li> <li>・学年を中心としたケース会議の開催や保護者や関係機関との連携により、効果的な指導・支援につなげる。</li> <li>・「教育相談だより」の発行や面談を通じた働きかけにより、生徒の自己理解・他者理解を深め、自己有用感を高めるためのヒントを伝える。</li> </ul>			
3 地域と連携した学校づくりと魅力化	類型制の発展等も含めた「岩美高校のあり方」の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校からの情報発信強化により本校の特色や類型制の魅力等が中学校に十分に理解され、定員充足率が上昇した。</li> <li>・1年時の類型選択の時期までに行う進路学習では自己理解に重点を置いたが、職業探究が不十分だったためか進路を深く考えさせることができなかった。</li> <li>・岩美高校魅力化CDの力を借り学校紹介アグレッシブビデオの作成や学校案内用パンフレットのデザインをリニューアルし、管理職が中心となって県内外の中学校において積極的な広報活動が行うことができた。</li> <li>・生徒の自主的な地域貢献活動や公営塾、部活動の取組等が全国紙、地方紙で記事に掲載され、本校教育活動の地域認知度が高まりつつある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路を見据えた類型選択を行うことができる。</li> <li>・各類型の学習内容の魅力が効果的に発信でき、積極的に地域との交流が図れている。</li> <li>・地域コミュニティの拠点となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年、教務部及び進路指導部で連携をとりながら、生徒にとって適切な類型選択となるよう選択調査を実施する。</li> <li>・進路志望を意識した類型選択となるよう、各進路行事を再構築する。</li> <li>・学校運営協議会(コミュニティ・スクール)を有効に活用し、具体的な地域学校協働活動に着手する。</li> <li>・「岩美高校あり方検討委員会」を継続するとともに、議論内容を教職員間で随時共有し、「中学生が行きたくなる学校づくり」を実現するための具体策について検討する。</li> </ul>			
	地域探究型学習の発展・充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワーキンググループの会を年間通じて16回行い昨年度の探究学習の振り返りの議論がよくできたが全職員にこの取組の意義を浸透させるには至っていない。</li> <li>・学校評価アンケートでは「地域と連携した活動にも取り組み地域に貢献したい」と思う生徒の割合が78.9%で目標値には届かなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワーキンググループを中心に練った探究学習の年間計画が全職員に浸透し、生徒が生き生きと学習している。</li> <li>・学校評価アンケートでは「地域と連携した活動にも取り組み地域に貢献したい」と思う生徒の割合が80%以上。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワーキンググループを月1度開催し計画を立て、その計画を学年ごとに周知、議論する場を設ける。</li> <li>・岩美高校魅力化コーディネーターの配置を更に地域資源の有効な活用による内容の深化・拡充につなげる。</li> </ul>			

<p>様式 3 業務改善</p>	<p>校務分掌、任務分担の見直しと長時間勤務者を解消</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「授業情報共有スペース」のGoogle Classroomを立ち上げ、ICTの授業での活用事例の共有が進みつつある。</li> <li>・時間外業務時間の年間合計が360時間を超える教職員は令和6年1月末現在で3名となっている。大会引率等により時間外勤務時間が多くなる場合、振替休日の取得を促すとともに、泊を伴う生徒引率に係る変形勤務時間の設定等を積極的に講じている。</li> <li>・衛生委員会での協議事項について、校内掲示板にて直ちに報告・共有するとともに、重要課題等については職員会議等を活用して教職員で共有し、業務改善についての自覚を促している。</li> <li>・職員会議を短縮し探究学習の進め方についての情報共有の時間を確保している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6年1月末時点において、時間外業務時間の年間合計が360時間を超える教職員がいない。</li> <li>・業務改善のための新たなICTの活用がなされている。</li> <li>・会議を精選するとともに、職員会議の一層の時間短縮を図り、必要とされる情報共有のできる場と時間を創出する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員定数減に伴う職員の業務負担の実態や可能な業務削減策について情報を収集するとともに、その情報を踏まえて衛生委員会等でより効果的な対策等について検討を進める。</li> <li>・全学年が端末を所持することを好機ととらえ、ICT活用の職員研修を実施するとともに職員の利活用の例を共有しやすいしくみを作る。</li> <li>・泊を伴う生徒引率に係る変形勤務時間の設定等を年度当初から積極的に講じるとともに、職員全体に周知を図り当該職員が定時退勤しやすい環境を整える。</li> </ul>		
------------------	--------------------------------	---	--	--	--	--

評価基準 A：十分達成 B：概ね達成 C：変化の兆し D：まだ不十分 E：目標・方策の見直し  
 [100%] [80%程度] [60%程度] [40%程度] [30%以下]